

【会員投稿】

## 小判青1銭印刷局銘葉書のボタ印と二重丸印使用局リスト

杉原 正樹

福岡支部報「げんかい」の 600 号達成、遅まきながらおめでとうございます。600 号は半世紀におよぶたゆまぬ活動の賜物だと思います。「600」とは直接関係ありませんが、小判青 1 銭印刷局銘葉書でのボタ印、二重丸印の使用状況について記したいと思います。

昔、「げんかい」200 号に同じ駄文を寄稿した記憶があります。その時は「スタンプレーダー」の記事をもとに、同誌未言及のボタ情報（確か高田）や KG 印についても言及したと思います。それから数十年経ち、2016 年頃から東京の郵趣会、いづみ切手研究会の機関紙「IZUMI」に会員投稿として各人所有のボタ・二重丸印のデータ発表が数年間に亘り続きました。これを基にオークションデータや各種作品集、私蔵品なども加え、データ上知られているほぼ全ての小判青 1 銭印刷局銘葉書の使用局を纏めたのがこの下表で、ボタ印は 30 局（除市内局）、KB2 は約 80 局、KG を 9 局記録しています（2020 年 8 月現在）。

県名	旧国名	ボタ確認局	KB2 確認局	KG 確認局
秋田県	羽後		大曲	
山形県	羽前	山形		
栃木県	下野	宇都宮		
群馬県	上野	前橋 高崎	太田、桐生、富岡、藤岡、下室田、 沼田、三野倉、草津、館林	湯檜曾
茨城県	常陸		水戸下市	
埼玉県	武藏	浦和	熊谷、本庄、加須、川口、松山、 川越、中瀬、幸手、鳩ヶ谷、桶川	
千葉県	上総	——	大網	
	下総		佐倉、市川、野田、布川	
	安房	——		
東京都	武藏	東京、市内 14 局	八王子、下板橋、小川、王子、 品川、中野	
神奈川県	武藏	横浜		
	相模			
新潟県	越後	新潟、高田	燕、長岡、弥彦、村上	岡野町
長野県	信濃	長野 松本	小諸、奈川、飯田、赤穂、 伊那村伊那部、上諏訪、福島	旦開村新野
石川県	加賀		金石	
	能登	——		
山梨県	甲斐	甲府	日下部	
静岡県	駿河	静岡	藤枝、島田、清水	
	伊豆	——		修善寺
	遠江	——	浜松、森町、気賀、本郷、掛川、 掛塚、二俣、袋井、三ヶ日、中村	上山梨

愛知県	尾張	名古屋		
	三河	——	豊橋, 西尾, 大野, 大濱, 一色, 福岡	
三重県	伊勢	津, 四日市	東富田	
	伊賀	——		
	志摩	——		
滋賀県	近江		愛知川	
和歌山県	紀伊	和歌山		
京都府	山城	京都		
	丹後	——		
大阪府	摂津	大阪, 市内 2 局		
	河内	——		恩智
	和泉	——	堺, 貝塚, 岸和田	
兵庫県	摂津	神戸, 市内 1 局		
	播磨	姫路	寺屋町	
	淡路	——	志筑	
	但馬	——		
	丹波	——		
鳥取県	因幡	鳥取		
	伯耆	——	境, 倉吉	
島根県	出雲	松江	赤名, 杵築	
	石見	——	浜田, 津和野, 高津	
	隠岐	——		
山口県	長門	山口, 赤間関	奈古, 厚狭, 深川湯本	古市
	周防	——		中ノ関
香川県	讃岐	高松		
徳島県	阿波	徳島	富岡, 浅川	
福岡県	筑前	博多		
	筑後		柳川	
	豊前	——		
長崎県	肥前	長崎		
	壱岐	——		
	対馬	——		
大分県	豊前	——	中津	長洲
	豊後	大分		

( 1 ) 出典:雑誌類;「IZUMI」,「スタンプレーダー」,「フィラ関西」,「静岡県初期消印集」,「スタンプコレクター」

競売カタログ;「ジャパンスタンプ」,「タカハシスタンプ」,「スタンペディア」「サンフィラテリックセンター」.

オークション誌は記述の有無を問わず筆者確認分を含む

( 2 ) 「——」は不存在, 空欄は未発見, 未報告

( 3 ) 県名なき地域はボタ印, 二重丸印ともに未発見・未報告の道県

ご承知のように小判青 1 錢葉書には 2 種類の銘版が知られ、発行時から明治 21 年頃までが「大日本帝国大蔵省紙幣寮製造」、同 21 年以降は「大日本帝国大蔵省印刷局製造」銘版になった。一般に「紙幣寮銘」「印刷局銘」と略されることが多い。小判青 1 錢印刷局銘葉書の 99%以上は丸一印で抹消されているが、明治 21 年 6 月から 3 ヶ月間一部の局で、その中でも限られた期間使われたのがボタ印と二重丸印である。

日専での最初期データは東京 21 年 6 月 8 日となっているが、あと数日早い、地方での使用例が存在している。また、所謂サドル便(ボタ・二重丸印で抹消、着印が丸一印)も 20 通以上あり、なかには KB2 の最終便号抹消、丸一印のイ便着印も数通知られている。

事故印(川支、紛来など)の発表はないが、停車場印を数通確認している。書留や外信使用、鷺色など色変わりの KB2・KG 印は見つかっていない。

日本では葉書の使用頻度が高いといえど、小判青 1 錢印刷局銘葉書のボタ印、二重丸使用期間は 3 ヶ月であり、故澤先生も雑誌に 100 枚程度の東京支局ボタを調べても印刷局銘はほぼ出てこない<sup>(1)</sup>、と書いている。概して西日本での使用例は少なく、大阪や京都といえども簡単には見つからず、横浜と神戸は知られざる珍品級である。例外は東京(本局と市内局)で、21 年 7 月や 8 月の日附を持つはがきは印刷局銘に当たる確率が高い。また、京都であれば 8 月 25 日～31 日、松本では 8 月 14 日～31 日の日附は印刷局銘に遭遇する可能性が高い。

オークションカタログで「印刷局銘」と書いてあれば後はカネだけの問題だが、記述が消印のみであったり、紙幣寮銘記述であったりすることも多い。具体例を示すと、2020 年前半で承知する限り以下の記述のようなボタ印、二重丸印ロットがいずれも印刷局銘であった(金額はいずれも最低値→落札値)。

JPS オークション 527 回 Lot2071	PC12 (=紙幣寮銘) 京都ボタ 21.8.30.ハ	500 円 → 500 円
日本フィラテリックセンター 780 回 Lot219	松本ボタ 21.8.25.ホ	2,000 円 → 6,400 円
日本フィラテリックセンター 782 回 Lot479	松本ボタ 21.8.16.ホ	2,000 円 → 6,000 円
日本フィラテリックセンター 782 回 Lot3069	KB2 阿波浅川	2,000 円 → 2,700 円
ジャパンスタンプ 208 回メール Lot5941	KB2 三河福岡	1,000 円 → 1,000 円
ジャパンスタンプ 208 回メール Lot5944	KB2 三河一色	1,000 円 → 3,500 円
ジャパンスタンプ 208 回メール Lot5979	KB2 武藏川越	1,000 円 → 3,100 円

印刷局銘か否かの判断は下見やコピーサービスで葉書の銘版部をチェックするしかない。カタログの写真や記述で 6 ~ 8 月の日附、表に示したボタ使用局や二重丸使用の旧国名地域、白色ではなく細かな藁くずの混じったやや茶色がかかった用紙の葉書を選んでコピー請求するにつっこりする例も出てくる。しかし、下見は兎も角、コピーサービスの利用は何かと出費が掛かるうえ、大部分は紙幣寮銘で空振りに終わることが多いのも事実である。あとは上述の京都や松本で示したように自分でデータベースをつくってコピー請求すれば“bingo!!”となる確率は高くなろう。ただし、上記 2020 年前半のオークションでも % 強は複数の人が印刷局銘であることを判って、それなりの額で応札していることも忘れてはならない。最後に九州で使われた印刷局銘の博多と大分のボタ印葉書を示してこの文を終わりにしたい。

註:(1) 澤まもる「(39) 小判 1 錢葉書の東京支局ボタ印」『小判切手 東京が面白い』2013 年 鳴美



大分 M21.7.10口→豊後国・草地村宛



博多 M21.8.6ハ → 大阪宛

(註;博多、大分とも8月末まで連続して印刷局銘葉書が使用されてはいない)

### 【印刷局銘部拡大】



### 【表紙について】

久々に動植物国宝图案切手を紹介します。第2次の中では最難関の14円姫路城です。この切手は外信はがき（船便）用の額面として発行された。国内郵便に適応する使用例はほとんどなく、あっても混貼りである。消印は外信はがきに使用された際に押された欧文三日月印はあるが、櫛型印は非常に少ない。表紙はどのような状況で押されたのかわからないが、貴重な満月印である。

(矢)